

茨木キョウソウシアム  
インタビュープロジェクト

# 茨木 で 働く人 に聞いてみた



茨木キョウソウシアム インタビュープロジェクト

発行：茨木市市民活動センターきゃばす  
TEL：072-623-8820 MAIL：capas@ibaraki-npo.jp

2026. 03. 07発行

## 「茨木で働く人に聞いてみた」とは？

茨木キョウソウシウム（※）に参加した学生によるプロジェクト。具体的な夢を持ちにくいという自分たちの経験から、将来について悩む学生に向け、身近で働いている人の思いを聞くことで将来を考えるヒントになることを目的にインタビューを実施。今回は、大学生3人で、茨木市の市役所職員さん、農家さん、商店街の毛糸屋さん、フリースタイルフットボーラーさんの4組へ話を伺いました。

## ※茨木キョウソウシウムとは？

「茨木市で、大学を越えて、実践的に学ぶ」場。初回となる、2025年度は、7月から開始。学年・大学を越えて、約20名が参加。ミーティングを重ねて2つのプロジェクトが生まれました。この冊子はそこで生まれたインタビュープロジェクトのメンバーで作成しました。



主催：茨木市民活動センター 協力：茨木市

## 目次

- p.3-4 「最初はやりたくなかった仕事でも、自分の視点で広げていくことで、やりがいのあるものに変えていける」  
茨木市役所職員 向田明弘さん
- p.5-6 「仕事は楽しく、遊びは真剣に」  
Farm河野屋 辻蘭子さん
- p.7-8 「好きを追求し、極めること」  
プロフリースタイルフットボーラー まぢりさん
- p.9-10 「いろんなことに挑戦して、これがいいという道に進めばいい」  
山口紅葉堂本店 山口幸則さん 裕美子さん

## インタビュープロジェクトメンバーの紹介



ほかちゃん

インタビューを通して様々なことに挑戦することで好きと選択が広がり将来の道を広げることができました。また、インタビューで多彩な視点を持つ方々に出会うことで自分自身にも新しい視点を捉えることができました。



けんていー

僕はこのインタビュープロジェクトで人生の先輩たちから色々な話を聞くことで、自然と将来に関する不安を考えなくなりました。世の中には多様な考え方や価値観があって、それを頭に置いておく自分の視野だったり価値観が広がって行くのだと思いました。今回のインタビューを冊子にまとめることで、自分の聞いた話を今の中高生にも共有できると思うと、すごく価値のある活動だったと思います。



ゆうか

普段なら出会うことのない、大学も学年も異なる人達と一緒に何かを創り上げてみたいと思い、活動に参加しました。何をするかを決めるという所からはじめ、なかなか話が進まないということもありましたが、なんとかやり遂げることができて本当によかったなと思います。

# 「最初はやりたくなかった仕事でも、自分の視点で広げていくことで、やりがいのあるものに変わっていく」

茨木市役所職員 向田明弘さん



普段どのような仕事をされていますか？



向田さん

市民活動支援やおにクルの運営を行いながら、市役所の中で「人々の暮らしをより豊かにするにはどうすればいいか？」という視点で、まちづくりや市民のウェルビーイング（幸福）に関わる仕事をしています。



ほかちゃん

今の仕事についたきっかけは？



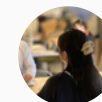
ほかちゃん



向田さん

学生時代は作家を夢見ていました。きっかけは大学で政治に関する勉強を行っていたことで、そのまま自然な流れで行政の道へと進みました。

誇りに思っていることは何ですか？



ほかちゃん



向田さん

最も誇りに思っているのは、「おにクル」という複合施設のプロジェクト。最初は「市民会館の建て替え」という業務として始まりましたが、それを単なる建物の話にとどめず、「まちづくり」全体の視点に広げました。

仕事で大変なことは？



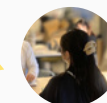
ほかちゃん



向田さん

一番大変だったことは、「誰かと一緒に仕事をする事」。特に「おにクル」のような大きなプロジェクトでは、関係者が多く、意見の調整や方向性のすり合わせがとても難しかったです。

仕事を通して感じる、いばらきの魅力は？



ほかちゃん



向田さん

「多様な人が集まるまち」だということ。大阪のベッドタウンとしての一面がありながら、実はカフェの店主、農家、工場勤務の人など、さまざまな生き方をしている人たちが暮らしていることが魅力だと思います。

進路を悩む学生に一言をお願いします！



ほかちゃん



向田さん

「やりたいことが分からなくても、働きながら見つけていけばいい。与えられた仕事を、自分のやりたい形に変えていくこともできる。」

## インタビューを終えて

向田さんの話から、やりたいことは後から見つけてもいいと分かり、安心しました。茨木のまちの魅力や、人とのつながりの大切さも感じられる貴重な時間でした。（ほかちゃん）



# 「仕事は楽しく、遊びは真剣に」

Farm 河野屋 辻蘭子さん

実は兼業農家で、本業は経理(週二程度)、それ以外は畑にいる。農業は主に辻さんの父親が経営しており、辻さんは手伝いという形で関わっている。



今の仕事に就いたきっかけは何ですか？



けんてい

料理が好きで、欲しい野菜が売っていないため自分で作り始めたことがきっかけです。100%農薬がないものを作りたい、より美味しいものを作りたいという思いから始めました。旦那さんの実家の畑をきちんと管理する必要があり、**どうせやるなら「より良いものを作って、より良い使い方をした方がいい」**という父親の信念もありました。



辻さん

仕事で大変なことは？



けんてい

害獣対策・水事情・連作障害の3つです。鹿やイノシシ、ハクビシンなどの戦いが大変で、畑の周囲に2m以上のネットと鉄柵を全面に設置しています。設置にかなりの費用がかかってしまっています。畑の水事情も良くないため、軽トラにポリタンクを積んで水を運んで水やりをしています。多品目栽培ゆえに、同じ場所で同じ種類の作物を続けて作れない(例：トマトは5年間戻れない)ため、輪作を考えながら場所を変える必要があります。



辻さん

仕事の中で感じる、いばらきの魅力は？



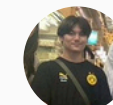
けんてい

都会でありながら自然も持ち合わせている点です。大阪市内からも近い。みんなが頑張って美味しい野菜を作り続けていることも魅力です。



辻さん

進路を悩む学生に一言お願いします！



けんてい

いろいろな選択肢があると思います。大企業に勤めるのも立派ですが、やりたいことをやるのも良いと思います。絶対はなく、道はたくさんある。**仕事は楽しく、遊びは真剣に！！**



辻さん

## ～印象に残った言葉～

### 農業の重要性

大企業が農業に参入している現状や、世界紛争・気候変動による食料不足の懸念から、「絶対にこの農業をやめたらあかん」と考えている。食料危機が来た際に、国内で生産できる量を確保することが重要。

### 自然の価値

今後、自然そのものがビジネスになり、その価値が高まっていく。

### 今後は…

今後は一人で続けていけるかが心配。時々手伝いに来てくれる人がおり、そのお礼として野菜を提供したり、農業を教えたりしている。子どもたちへの農業体験や子ども食堂に野菜の提供も継続していきたい。

## インタビューを終えて

いばきたマルシェに並んでいる珍しい野菜が印象的でした。インタビュー中に度々出てきた、儲かるよりもおいしい野菜を作りたい。どうせやるならとことんやる。というお言葉通り、明確な信念を持っていらっしゃるのだと感じました。世の中自分の思い通りに行かないことも多いと思いますが、そんな中でもとことんやれる人間になりたいです。自分も農業に興味があるので、ぜひお手伝いさせていただきたいと思います。インタビュー後にお野菜もいただきました。辻さんありがとうございました。(けんてい)





# 「好きを追求し、極めること」

## プロフリースタイルフットボーラー まぢりさん

単にパフォーマンスを披露するだけでなく、他にも様々な活動をされています。

- ①パフォーマンス：イベント等に出演。
- ②動画作成：SNS(TikTok, Instagram等)を活用した発信。
- ③レクチャー：講師として小学校で講演や、指導。



今の仕事についたきっかけは何ですか？



けんていー



まぢりさん

元々は高校・大学と建築やインテリアデザインを専攻しており、将来はその道に進むと考えていました。しかし、大学時代にフリースタイルフットボールと出会いました。実は元野球部で、大学で野球への情熱の行き場を失っていた時に、友人とリフティングをしたことがきっかけでした。建築系の道に進むか、プロのフリースタイルフットボーラーになるか悩んだ末、「家具作りは60歳からでもできるが、**この競技を全力で追求できるのは今しかない**」という直感から、プロの道を選択しました。

仕事で誇りに思っていることは？



けんていー



まぢりさん

出来なくて悩んでる子達がレッスンで少しずつ出来るようになって、笑顔で帰ってくれる。そんな子達が「俺のコーチすごいやる！」と自慢してくれる事です。その期待に応え続ける事も原動力になっています。

困っている・大変なことは？



けんていー



まぢりさん

収入の不安定さです。また、「体が資本」であるため、2年前の膝の前十字靱帯断裂のような大きな怪我は、仕事に直結する死活問題となります。

進路を悩む学生に一言お願いします！



けんていー



まぢりさん

「好きを追求し、極めること」自分の好きなことを犠牲にして働くのではなく、自分の情熱を大切にしてほしいです。好きなことを人に共有してほしいです。好きなことがある人は目がキラキラしています。夢とやりたいことは語り続けると良い。そうしたら誰かが拾ってくれます。好きなことを追求して嫌いになってもやめるのではなく、他の道を探す。例えば、サッカー選手→栄養士→トレーナー→コーチ等。自分の選んだ道を正解にしてください。自分の見たもの、経験したものしか好きなことは生まれないので、いろいろな場所に行っているいろいろな経験をしてほしいです。最後には続けた人が勝ち。好きなことを好きなときに好きなだけできるのは楽しいです。**好きをないがしろにする人は仕事もプライベートも楽しくなさそうに見えます。**今回の話も参考程度に聞き流しておいて、選択肢の一つとして頭の隅に置いてくれてたらいいと思います。

## インタビューを終えて

とても親しみやすい方で、プロフットボーラーとしてだけでなく、指導者としてもすごい方なのだと感じました。すごく楽しそうに仕事をしているのが伝わってきました。とても貴重なお話をいただきました。(けんていー)



## 「いろんなことに挑戦して、 これがいいという道に進めばいい。」

山口紅葉堂 本店 山口幸則さん 裕美子さん

創業明治28年！手作りの可愛らしいポップを作るなど、工夫を凝らしながら約131年間お店を守り続けておられます。色とりどりの毛糸を売る中で、購入したお客さんに編み方を教えています。ご夫婦共に気さくな方で、お話をするために来店する人も。



### 仕事に就いたきっかけは？



ゆりか



幸則さん

幼稚園の頃、機械編みしたものを解く手伝いをしていたことです。



裕美子さん

小さい頃から身近に毛糸があり、よく毛糸で遊んでいたことです。

### 誇りに思っていることは何ですか？



ゆりか



裕美子さん

明治28年から続いている商売を一日でも長く続けるようにすること、お客さんに編み方を教え、作品が出来上がった時のお客さんの笑顔を見ることがです。

### 仕事で大変なことは？



ゆりか



幸則さん

若者も来てくれるようにはなってきたものの、やはり客層が高齢者に偏っていることと、IT化についていけないことです。

### 仕事を通して感じる、いばらきの魅力は？



ゆりか



幸則さん

古くから今もなお残っているものと、新しいものがあること。商店街であれば、他の市町村ではあまりみかけなくなったアーケードがあること。

### 進路を悩める学生に一言お願いします！



ゆりか



幸則さん

### 柔軟性を持ち視野を広げれば、どんなことでもできる。

自分が思いを持つものがどのようにすれば叶うのか、早く見つけてほしいです。色々な夢があるから色々なことに挑戦して、これがいいという道に進めばいいと思います。目標を持って根気よく、諦めないことが大切です。

### インタビューを終えて

工夫をしながらお店を守り続け、夫婦仲睦まじい姿が印象的でした！進路を考える学生にとって、自分で可能性を掴むことの大切さを教えてくださいました。興味はあるけど難しそうだと思っていることでも、挑戦してみれば案外できることもあると思うので、進路に悩む学生が夢により一層希望を持つことができれば良いなと思いました！（ゆりか）

